

2019年度 聴覚領域研修会

【第1回】

日時：9月22日（日）10時00分～15時30分（開場および受付：9時30分）

テーマ：今さら聞けない 補聴器フィッティングの基礎知識

講師：坂本 圭（埼玉医科大学病院）、野田 幸義（神尾記念病院）

場所：日本福祉教育専門学校 本校舎（新宿区高田馬場）

対象：補聴器臨床の初心者（定員：20名）

- ・最近、補聴器臨床に関わり始めた
- ・成人領域に従事していて、高齢者の補聴器について相談を受けることが増えてきた
- ・リハ科に所属しているが、耳鼻科から補聴器外来を手伝って欲しいと言われている
- ・養成校での知識も遠のいてしまい、もう一度補聴器について学び直したい など

内容：午前は、補聴器臨床を積極的に行っている病院での外来の進め方の例、補聴器フィッティングの基礎知識（補聴器の形状による特徴、耳せんを選択、初回ガイダンスの内容、補聴器特性図の見方、補聴器適合検査の結果の解釈等）について、講義形式で行います。午後は、補聴器メーカーにご協力いただき、実機を用いてフィッティングの演習を行います。仮想症例に対して補聴器を調整し、補聴器特性測定装置で特性を図ってみましょう。さらに、実際の症例についてのケーススタディを行い、症例の訴えに対しての対応について考えていきたいと思っています。

問合せ先：岡野（埼玉県言語聴覚士会）okano@mejiro.ac.jp

【第2回】

日時：12月14日（土）12時45分～17時00分予定（開場および受付：12時00分）

テーマ：聴覚障がい児・盲ろう児の早期発達支援～関係発達論からの提言

（厚生労働科学研究費障害者政策総合研究事業）

講師：第I部：黒田生子（帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科教授）

第II部（特別講演）：鯨岡 峻（京都大学名誉教授）

場所：帝京平成大学池袋キャンパス（会場は後日決定）

対象：児童発達支援に従事する言語聴覚士、そのほか児童発達支援現場の実践者（保育士、臨床発達心理士など）の皆さん

内容：今日、わが国では新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、0歳台で聴覚障害が発見され、発達の最早期から支援を要する子どもが増加しています。他方、本邦の児童発達支援サービスの利用率は聴覚障がい児で約2%、視覚障がい児では約0.3%と極めて低く（厚生労働省2015）、視・聴覚に障害を持つ子どもの早期支援方法の普及と支援の質の担保が、今後早急に解決すべき重要な課題と考えられています。

本研修会では支援現場の昨今の問題状況（一部の支援現場における聴覚活用軽視の動向や、逆に手話使用を禁ずる動向など）をふまえつつ、早期補装具（補助具）使用による聴覚（視覚）活用の意義およ

び手話使用の意義を、幼い子どもと周囲との関係発達と感性的コミュニケーションの視点から改めて捉え直し、子どもの生育後の「より良い生」に資する支援とは何かについて、提言を行いたいと思います。

問合せ先：野原（東京都言語聴覚士会）a.nohara@thu.ac.jp

【参加費】

関東圏*都県言語聴覚士会会員：無料 学生会員：無料 非会員：2,000 円

*茨城・栃木・群馬・千葉・埼玉・東京・神奈川・山梨

【申込方法】

下の QR コード、もしくは各回お問い合わせ先まで、①お名前、②所属、③連絡先 (mail)、④都県士会員の有無、⑤参加希望回 (両回・第 1 回のみ・第 2 回のみ)をお知らせください。

<第 1 回>



<第 2 回>

